

## 2021年度 北陸産学技術交流会（情報交換）のアンケート結果

本資料は、北経連 新たな価値創出委員会の事業として2021年度に開催した「北陸産学技術交流会（情報交換）」（以下、「技術交流会」）の参加者および主査へのアンケート結果を、北経連で取り纏めたものです。

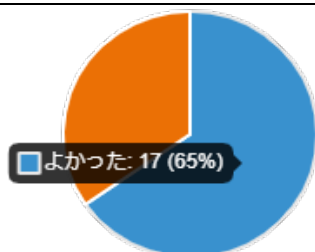
### 1. 技術交流会の開催状況

会員企業・大学に情報交換テーマを募集したところ、5社から8テーマの応募があり、提案会社と打合せを実施し、5テーマ（5社）で技術交流会を開催した。

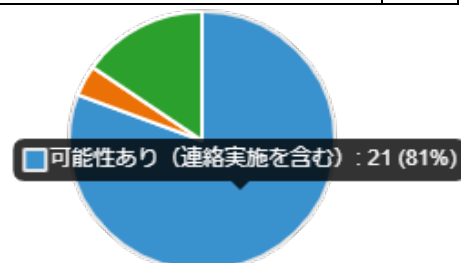
### 2. 参加者アンケート結果 [回答：26名（参加者28名）]

(1) 技術交流会に参加して有意義でしたか？ (2) 今後連絡をとりあう可能性はありますか？

・よかった	17
・まあよかった	9
・あまりよくなかった	0



・可能性あり（連絡実施を含む）	21
・可能性なし	1
・わからない	4



(3) 自由意見（○：肯定、△：改善・気が付いた点）

- 共通テーマについて産学で情報交換する有用性について再確認できた。
- 他企業や大学の皆様と交流できる貴重な機会を頂いた。
- 今後も様々なテーマでこのような機会を設けて頂きたい。
- テーマに関する各企業の熱意が感じられ貴重な交流であった。
- 新しい技術と今の商流を結び付ける素晴らしい機会だと思う。
- 参加企業より相談があり対応予定。
- 主査会社の技術と弊社の技術を組み合わせて、検証してみるのも面白いと思う。
- △ 同業他社の方が参加されていたので、突っ込んだ質問がしにくかった。
- △ 技術用途に関する意見交換は営業戦略にも関わるため、あまり発言はないと思う。改めて個別に話をさせて頂きたいと考えている。
- △ オンラインでの便利さは魅力だが、対面の方がより深い交流会になるように感じた。

### 3. 主査アンケート結果 [回答：5（主査：5）]

(1) 交流会開催の成果がありましたか？

・期待以上の成果があった	2
・まあまあ成果があった	3
・あまり成果がなかった	0

(2) 連絡をとりあう可能性はありますか？

・可能性あり（連絡実施を含む）	5
・可能性なし	0
・わからない	0

### (3) どのような成果がありましたか？

- ・通常業務や営業活動の中では接点をもつことない企業・大学と面識を持つことができた。
- ・共通のテーマで広い分野の方々から情報交換ができ、今後にもつながりそうであること。
- ・当該技術への関心の高さとか何かしらの課題があることが分かった。
- ・交流会では当社の課題について深く踏み込んだ話はできなかったが、交流会終了後に個別に話したいとの連絡があった。
- ・当該技術に関連する設備を使用する方から生の声を聞くことができた。
- ・テーマ関連技術の特性や違いを理解頂いたことと、その関心の高さが実感できた。

### (4) 今後開催される主査への運営面でのアドバイス等

- ・個別テーマは、少人数の方が、参加者が議論に参加しやすく、運営面でやり易く感じた。
- ・オンライン開催では、時間 90 分、参加者 5 名程度（最大 10 名）で丁度良かった。
- ・参加者の中には、セミナーと勘違いして応募されている方もおられた。
- ・対面であれば、より活発な意見交換や実演もできるかと思うが、遠方からの移動を考えるとオンライン開催の方が参加しやすいと思う。
- ・基調スピーチでコアになる話を先にすると、問題意識が共有でき議論がスムーズに進む。
- ・参加者のバリエーションが広い方が情報交換には適していると思う。

### (5) 次年度の技術交流会テーマ募集があったら再度応募しますか？

・応募したい	1
・応募を検討する	4
・応募はしない	0
・わからない	0

交流会実施直後にアンケートを依頼したことが影響？

## 4. 事務局としての評価と今後の対応案

初の試みでテーマ提案の応募があるのか不安だったが、募集 4 件に対し 5 社から提案があり、テーマの内容や重複等について打合せて 5 社 5 テーマの技術交流会を開催できた。

参加者アンケートでは、「よかった (65%)」「連絡の可能性あり (81%)」、主査アンケートでは「期待以上の成果 (40%)」「連絡の可能性あり (100%)」であり、オープンイノベーションの契機となる交流の場の提供という目的に合致した取組みだったと考えている。

コロナ禍の影響もあり 5 件中 4 件がオンライン開催で、参加者 5 名前後の少人数の交流会であったが、参加者から質問や自社の取組み等について活発に発言があった。

各回とも大学研究者の方の 1~2 名の参加があったが、企業とは違った視点の発言や関連する研究内容を紹介頂き、企業側参加者の刺激にもなったと感じた。

一方で、深く踏み込んだ内容についての意見交換は、他社の参加者がいる交流会の場（特にオンライン開催）では難しい面があり、交流会後に個別に連絡をとっていたようだ。

本取組みが一定の評価を得たことより次年度も開催する。テーマや参加者の募集チラシに今回の参加者・主査の意見等を掲載して参加を呼び掛けるとともに、運営方法等も知見が得られたため、主査との開催に向けた打合せの中で助言などをしていく。

以上